

地方通信



東北方面

依つて完成する豫定である。

道路開鑿と沖合の浚渫

宮城縣の宮電開通以來世に現れた、利府村赤沼濱田濱附近は、最近著しく開け殊に別荘地の適地として目下土地買入れの申込や現に建築中のもの數多いが、同地の有力家加藤孫七氏は此際同地の林産物並濱海の群魚を輸送するため表赤沼、石巻街道に通する道路の開鑿ならびに沖合の浚渫計畫を立て六月初旬に完成する見込みで奔走中だが浚渫は縣補助を仰ぎ道路の開鑿は寄附に

白石町鋪装道路工事請願

宮城縣白石驛から國道までの驛通り約二丁目三十間は、昨年末コンクリート鋪装を施したが、これに隣接せる本町、長町兩區有志も、驛通りの如く兩町地區内道路の鋪装を希望し、本町區から之れが工事を縣に對し請願したが、仲町區に於ても既に協議が纏り、隣接せる長町區有志に對し非公式に交渉中で、同區が之に賛成の場合には直ち

宮城縣伊具郡角田町・枝野、藤尾、小齊村各村を通する阿武隈川架橋問題は、對岸町村多年の懸案であつたが、當面の問題として最近再び擡頭し來り對岸各町村協力して、これが實現を期せんと小野縣會議員をして、頗はして、縣へ交渉中のところ縣に於ても非常に好意を表して今庭、熊谷、富樫、鈴木手作を實地測量に派遣したが、角田町からは町長助役を始め町會議員等現場に出張して、大いに斡旋に努め、今回は一氣呵成的に架橋の具體案を作り目的の貫徹に努力することを申合せた、架橋の曉には對岸の各町村（伊具十五ヶ町村中、阿武隈川西側七ヶ町村東側八ヶ町村）の物資は期せずして角田町に集中するばかりでなく、郡内の商取引を圓滑にし且、縣立中女學校の男女學生約二百名も從來のやうに暴風の度毎に船止めとなり、休校する憂ひがなくなり、

阿武隈川に橋が架かる

商取引上、教育上至便となるので、其の實現は非常な熱を以て期待されてゐる。

今日の時代に渡船場の存在するは、交政策上から見て、實に遺憾千萬である。三四百間の川を渡るに約一時間を要するばかりでなく、荷馬車も自動車も通行出来ないやうでは、運輸交通上困つたものである。如何に府県道を立派に改修したからさて、途中に渡船があつては道路の効果を發揮することには出來ない。獨り角田の架橋ばかりの問題ではない、縣内二十四ヶ所の渡船場を一ヶ所四五萬圓程度の架橋費として、百萬圓もあれば全部架橋するこそが出来、これに依つて受くる縣民の利福は甚だ多大なることを信ずる。何とかして實現を期したいものである。

北 陸 方 面

近 畿 方 面

交通地獄を救へ……と

自動車運轉手自ら大宣傳

自動車運轉手が自ら街頭に立つて、交通地獄を整理しようといふ我が國最初の企てが、大阪シヨフアーハー會で計畫されて居る。

年々激しくなる社會相は、時間と空間を極度に減縮しなければ止まず、のろい人力車は漸次自動車のために驅逐されるが、新潟が最も此傾向が烈しく市内の乗用自動車は二百七臺に増加し、中、定期乗合八十七臺あり之が日に五十回位運轉してゐる。之に引替へて人力車は二、三年來減少し大正十五年六百六十臺、昭和二年四百十二臺、昭和三年三百臺といふ、みじめさであるが近來は貸切自動車は料金引下で、ますく人力車を壓迫し市内で人力車を探すには容易でなくなるかも知れない勢ひである。

幸七氏はラヂオで交通安全の講演をなし、此の間に參加組員數百名はお手のもの、自動車を飛ばし、或は盛り場に立つて通行人には「人道人を殺さず」車馬自動車には「當てるな壊すな、傷つけるな!」の宣傳ビラ十萬、旗九萬、マツチ十萬を撒く。午後は四時から中央公會堂で映畫と講演の會を催し、府、市陸軍關係からの應援講話を始め、會員の宣傳演説をやつて氣勢をあげ又大阪市電氣局は電車内のビラを寄附し、阪神、京阪、南海、大軌等の各郊外電車も此催した後援して、當日四十萬枚の標語入り

シヨフアーハー會と云ふのは今度初めて出來た大阪の自動車運轉手の組合で、會員が既に三千三百四十名居る。宣傳運動は五月二十日の日曜を期して行はれた。

當日午前十時から十一時迄の間に組合員

滅びゆく人力車

市電乗換券を寄附して居る、かうして當日

は運轉手自身の手に依つて大阪全市が交通

安全街となつた。

五日橋の架設について

四面山脈に圍繞されて、交通の便に恵ま

れなかつた奈良縣山邊郡東山間部は、過る

大正十二年に丹波市から三重縣伊賀上野町

に通する縦貫幹線である丹波市上野線を、

府縣道に認定せられ、道路は既に地元町村

に於て義務的改修を了へ交通の面目を改め

たが、三重、奈良兩縣界を貫流する名張川

に遮られ渡船に憑りて辛うじて交通しつゝ

あつたが、出水期に至つては交通の杜絶歳

歳數回に止らす、爲めに地方産業の發達を

阻害すること不尠、茲に於て三重、奈良兩

縣沿道町村の切なる宿望を容れ、三重縣當

局と接衝を重ね、奈良縣波多野村・三重縣花

垣村・兩村からの寄附金を合せ、兩縣費用切

半負擔をし昭和二年五月工を起、満十ヶ月

を経て本年三月末竣工を見たり。

本橋の構造は大體次の如し。

總長參百拾貳呎八時二分ノ一有效幅員拾

五呎で橋臺橋脚各二基から成り架するに構

桁橋三連を以て、中央徑間は百六十六呎

六時の「プラット」式兩詰は經間七拾呎の

「ワーレン」型モレ、何れも鐵骨構造モレ

橋臺橋脚は共に鐵筋混擬土構造モレ橋面亦

同様く鐵筋混擬土の床版に「アスファルト

プロック」を以つて鋪装する等、構造物全

部に亘り永久且つ耐震耐火的なるは勿論將

來の維持修繕費を頗る輕減す可く努めた。

架設に要したる材料は、鐵骨約百參拾參

英噸鐵筋約三十二英噸混擬土百五十三坪、

「セメント」千百五十四樽之れに要したる

總工費七萬五千六百圓である。

左側通行の勵行。

溢りに道路を占用せしめざること。

鐵道軌道の踏切通過後に注意せしめるこ

と。

交通運輸營業者をして事故防止につきめ

じむること。

それから方法としては

交通營業者從業員に安全デーの趣旨なら

びに交通に関する注意を徹底せしむること。

學校長に兒童、生徒に對し交通に關する

交通地獄救濟に

縣下交通安全デー

近時交通事故頻發の傾向があり、交通機

關操縱者ならびに一般民衆の注意を喚起す

るために、廣島縣では六月五日から七日ま

で三日間交通安全デーを催すことになり縣

から各警察署長に通牒を發した、其の趣旨

は

近時交通事故頻發の傾向があり、交通機

關操縱者ならびに一般民衆の注意を喚起す

ために、廣島縣では六月五日から七日ま

で三日間交通安全デーを催すことになり縣

から各警察署長に通牒を發した、其の趣旨

は

近時交通事故頻發の傾向があり、交通機

關操縱者ならびに一般民衆の注意を喚起す

ために、廣島縣では六月五日から七日ま

で三日間交通安全デーを催すことになり縣

から各警察署長に通牒を發した、其の趣旨

は

近時交通事故頻發の傾向があり、交通機

關操縱者ならびに一般民衆の注意を喚起す

ために、廣島縣では六月五日から七日ま

で三日間交通安全デーを催すことになり縣

から各警察署長に通牒を發した、其の趣旨

は

近時交通事故頻發の傾向があり、交通機

關操縱者ならびに一般民衆の注意を喚起す

講話を依頼すること。

期間中興行場に於て交通安全趣旨の宣傳を行ふこと。

消防組、青年團、少年團などに交通整理ならびに宣傳の援助を依頼すること。

電車に交通安全の掲示をなさしめること。電車自動車の發着場に交通安全の立札、ポスターを掲示せしむること。

電車汽車の踏切番人を臨時増加すること。尚ほ廣島瓦斯電軌會社七臺、廣島電軌二臺、藝南電軌一臺の花電車を運轉させ、交

通安全を宣傳せず外に各交通安全の趣旨徹底に努めるやう各方面に依頼状を發し學務部長は各中小學校長に宛て通牒を發した。

左側通行の勵行。道路を溝りに使用せぬこと。

電車汽車の飛び乗り降りさせぬこと。踏切に注意すること。

縣下の交通事故

昨年は自動車で三百八件

別項の如く廣島縣では交通安全アーチを催すが統計にあらばれた縣下の交通事故は左の通りである。

自動車 二年件數三百八件、死者十三名、傷者二百十三名△三年四月まで件數百九

件、死者五名、傷者九十六名

自動自轉車 二年件數四十三件、傷者四十

五名△三年四月まで七件、傷者五名

自轉車 二年二百三十六件、死者二名、傷者百八十五名△三年四月まで三十六件、

死者一名、傷者二十六名

電車 二年百十一件、死者三名、傷者九十

名△三年四月まで二十四件、傷者二十一

名△四年四月まで二十一件、死者

八名、傷者八名

牛馬車 二年百九件、死者六名、傷者五十

六名△三年四月まで三十二件、傷者二十
三名

荷車 二年七十二件、死者三名、傷者四十
二名△三年四月まで十三件、傷者六名

その他 二年三十二件、死者一名、傷者二十九名△三年四月まで九件、傷者八名

合計 二年度九百八十件、死者六十一名、
傷者六百九十名